動物・ペットコースのシラバス

1　設置の目的

歴史的に農耕文化を中心として歩んできた日本は、動物と人との関りが深く、共に生きる環境にあった。現代の日本においてもペットとして動物を飼い、「家族」の一員として迎える人も多い。

そのような中、安易な考えで動物を購入し、飼育しきれなくなった結果、飼い主としての責任を放棄したり、多頭崩壊といった社会的な課題を抱える日本の現状もある。

本来、ペットを含めた動物は人と共に生きる命を持った存在であり、動物の生態や行動等を正しく理解し、現代の日本が抱える動物愛護に対する課題に真摯に向き合うべきものとして、それを醸成するための人材を育成することが肝要である。また、近年、動物と触れ合うことによる人の心理面でのケアが注目されており、教育業界や福祉業界において動物を介在させることによって一定の効果を期待する動きも年々、大きくなっている。

本校を希望する生徒の多くは、義務教育期に不登校や発達障がい等の課題を抱えていることから、自身の興味や関心を基に力を伸ばし、夢の実現に向けて歩みたいと希望しており、したがってその興味・関心に裏打ちされた特色ある教育の場を提供することは必要不可欠である。

現在、動物に興味・関心を持つ若者が多いという点。また、心理学に興味・関心を持つ人も多い中、人の心理的側面に動物を介在させた学びに注目しつつ、「人と共に生きる動物」を学習の主テーマにすることで、卒業後の進路が単に動物関連にとどまることなく、社会における心理や福祉など様々な分野に広がることは、生徒の可能性に大きく影響するものと思われる。本コースで学んだ学習を起点として、卒業後、更に学びを深め、幅広い知識を得て社会に貢献できる人材になることを願い、本コースを設置することとした。

2　教育目標

本校の教育目標である「個の完成」「社会的自立」に基づき、次に定める目標を達成させる。

（1）「人と共に生きる動物」の観点にたって、人と動物との関わりを学び、その学びを基礎として様々な人との関りを深める。

（2）動物の生態や行動等の知識を習得し、その知識を生かして実際の動物に対応するための力を培う。

（3）現代日本が抱える動物に関する様々な社会的課題について、実際に見聞し自身の考えを深める。

（4）地域の特色を生かしつつ、動物に対する様々な取り組みや諸問題についての学びを深める。

3　カリキュラム構成

	第1学年	第2学年	第3学年
科目	人･動物共生学Ⅰ（2単位）	人･動物共生学Ⅱ（2単位）	人･動物共生学Ⅲ（2単位）
	動物行動生態学（3単位）	動物管理学（3単位）	動物と地域社会（3単位）
愛玩動物	【基礎】 生態学、飼育学、行動学 （ペット･オーナー検定取得） 「座学」･･･資格取得 「実習」･･･ハローアニマル （飼育棟見学実習）	【発展】 疾病と予防、管理学 「座学」･･･講義 「実習」･･･ハローアニマル （獣医師見学）	【発展】 動物を通じた社会課題 （法令、愛護） 「座学」･･･講義 「実習」･･･保健所 （NPO法人）
他動物	【基礎】 産業動物の生態学、行動学 「座学」･･･講義 「実習」･･･馬術場	【発展】 産業動物の疾病と予防、管理学 「座学」･･･講義 「実習」･･･馬術場	【発展】 害獣と地域社会 「座学」･･･講義 「実習」･･･見学 （猟友会）
心理と動物	【基礎】 アニマルセラピー 「座学」「実習」 ･･･ハローアニマル （事業内容･体験）	【発展】 アニマルセラピー 「実習」 ･･･ハローアニマル （実活動サポート） ･･･馬術場 （体験）	【発展】 心理学と動物 「実習」 ･･･ハローアニマル 「座学」 ※アニマルセラピーと心理学（カウンセリング）について講義 （ペットロス･ハートケア カウンセラー資格取得）
共通	【横断的な学び･･･夏季、秋季、冬季講習を通して学ぶ】 野鳥観察（鳥類の生態と行動）、動物園実習（バックヤード見学･体験）、牧場飼育体験実習　等		

4　添削指導・面接指導・試験

学校設定教科・科目の添削指導回数及び面接指導単位時間数については、「１単位につき、それぞれ１回以上及び１単位時間以上を確保（学習指導要領）」することとし、次の表に記載の通りとする。

学年	科目名	単位数	添削指導 1 単位*3 回	面接指導 1 単位*2 時間	試験　※
1　学年	人・動物共生学Ⅰ	2	6 回	4 時間	1 回
	動物行動生態学	3	9 回	6 時間	1 回
2 学年	人・動物共生学Ⅱ	2	6 回	4 時間	1 回
	動物管理学	3	9 回	6 時間	1 回
3 学年	人・動物共生学Ⅲ	2	6 回	4 時間	1 回
	動物と地域社会	3	9 回	6 時間	1 回

※試験については座学においてのみ実施。実習を伴う場合は成果物によって試験に替える。

5　評価の観点と評価方法

（１）評価の観点

①　動物の生態や行動等の知識を習得し、その知識を動物との関わりに生かすことができたか。（知・技）

②　動物に係る様々な社会的課題や地域の特性を踏まえた問題等について、その知識を習得し、課題の解決に向けて自身の考えを深め、表現することができたか。（思・判・表）

③　動物との関りを通して、「共生」の観点を持ちつつ自ら行動して動物や人と関わる姿勢を養うことができたか。（主）

（２）評評価方法

添削指導・面接指導・試験等及び実習に係る成果物等で評価し、習得単位は卒業認定単位に加える。